

平成30年度 自己点検・評価(大学院)

(1)理念・目的

評価項目	文学研究科	経営情報学研究科	人間生活科学研究科	看護学研究科
(1)大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	大学の理念・目的は、教育基本法の基本精神や、四国大学の建学の精神「全人的自立」に基づく4つの教育指針とも整合しており、また文学研究科では、それを踏まえて研究科の目的を設定している。	四国大学の建学の精神「全人的自立」に基づき、4つの教育指針を掲げ、これらを踏まえて、研究科では、「真のプロ・キャリア」の養成という目的を適切に設定している。	大学の理念・目的は適切に設定されており、それを踏まえて、人間生活科学研究科は、健康で良好な質の高い人間生活実現のために、人間発達と人間生活に関わる専門的かつ学際的な知識を持つ高度な専門的職業人の養成と社会人の再教育等を行うという目的を設定している。	看護学研究科の教育研究上の目的は、大学の理念・目的に沿って連関性を考えて設定している。
(2)大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	大学の理念・目的、研究科の目的は学則及び履修要綱に明示しており、四国大学ホームページやパンフレットに掲載している。	大学の理念・目的及び研究科の目的は、学則及びこれに準ずる規則や履修要項、四国大学ホームページ、パンフレット等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表している。	研究科の人材養成の目的を、学則、履修要綱、四国大学ホームページ、パンフレット等に記載し、公表している。	研究科の人材養成の目的を、学則、履修要綱、四国大学ホームページ、パンフレット等に記載し、公表している。
(3)大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	中期的には、「大学改革ビジョン2017」に基づき、年度ごとの行動計画を立て、組織的に取り組んでいる。長期的にはグローバル化・学際化・生涯学習に対する施策を検討している。	教育・研究の機能強化と質保証の取り組みとして、「四国大学大学改革ビジョン2017」を策定し、2021年度までの行動計画を立て、組織的に取り組んでいる。	教育・研究の機能強化と質保証の取り組みとして、「四国大学大学改革ビジョン2017」を策定し、2021年度までの行動計画を立て、組織的に取り組んでいる。	教育・研究の機能強化と質保証の取り組みとして、「四国大学大学改革ビジョン2017」を策定し、2021年度までの行動計画を立て、組織的に取り組んでいる。本学の看護学研究科の果たす役割を踏まえ、研究科の今後の発展のために、さまざまな分野の開設を検討している。2018年度に「助産学分野」を開設した。
(4)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	研究科の目的の適切性については、カリキュラムの見直しや履修要綱・シラバスの確認の際に検証しており、また、研究科委員会及び教育改革推進委員会においても検証している。	研究科の目的の適切性については、カリキュラムの見直しや履修要綱・シラバスの確認の際に適切性について検証しており、また、研究科委員会での確認を経て教育改革推進委員会においても検証している。	研究科の目的の適切性については、カリキュラムの見直し、毎年の履修要綱執筆時に検証、研究科委員会にて議論を行い、教育改革推進委員会で報告・検証している。	看護学研究科の目的の適切性については、カリキュラムの見直しや履修要綱の確認の際に検証、研究科委員会で議論を行い、教育改革推進委員会で報告・検証している。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	文学研究科	経営情報学研究科	人間生活科学研究科	看護学研究科
(1)授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	文学研究科の修士の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を決めて、四国大学ホームページ、履修要項、パンフレット等に記載し公表している。	経営情報学研究科では、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに学位授与方針としてディプロマ・ポリシーを定め、四国大学ホームページ、履修要項、パンフレット等に記載し公表している。	本研究科が目指す人材養成像としてディプロマ・ポリシーを設定し、履修要綱、ホームページ、パンフレット等に記載し公表している。	看護学研究科の教育目標およびディプロマ・ポリシーは履修要綱及び四国大学ホームページに掲載し公表している。
(2)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	文学研究科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて教育課程の方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、四国大学ホームページ、履修要綱、パンフレット等に記載し公表している。	経営情報学研究科では、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに教育課程の編成・実施方針としてカリキュラム・ポリシーを定め、四国大学ホームページ、履修要綱、パンフレット等に記載し公表している。	カリキュラム・ポリシーを設定し、履修要綱、ホームページ、パンフレット等によって公表している。カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムが編成され、ディプロマ・ポリシーとも合致している。	研究科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて教育課程の方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、四国大学ホームページ、履修要綱、パンフレット等に記載し公表している。2018年度に内容の整合性について検討し、2019年度はその教育課程に沿って進めている。
(3)教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	文学研究科の教育課程の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、少人数教育・個別指導を重視し、四国大学文学部の教育課程との接続も考慮しながら教育課程を編成している。	経営情報学研究科では、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。	人間生活科学研究科は人間生活科学専攻という一専攻を保健学分野、児童発達教育学分野、健康生活科学分野で構成しており、四国大学スタンダード、学部・学科のディプロマポリシーとの整合性を図りながら、学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。	看護学研究科は、地域社会に貢献できる「高度実践看護専門職者」の養成を目指しており、学生は地域の医療専門職者として働きながら学んでいるので、社会や時代のニーズを確認しながら学びを深められている。教育課程を体系的に編成し、時間割は学生の学びの進度に合わせて柔軟に立てるように工夫している。2018年度に開設した「助産学分野」は助産師国家試験受験資格取得も目指しているため、その目的を達成するための授業科目を設定している。

(4)教育目的、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	研究科委員会において、カリキュラムや履修要綱を確認の際に、教育目的、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性を検証し、年度末の委員会では改善のための意見交換を行い、教育改革推進委員会に報告、検証している。	経営情報学研究科では、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれにおいて、教育目的、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性について、教育改革推進委員会の定期報告に合わせ、定期的に検証を行っている	人間生活科学研究科は保健学・児童発達教育学・健康生活科学の3分野から成るため、各分野代表者を中心に教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの適切性についての検証を適宜実施し、教育改革推進委員会に報告、検証している。	2018年度に教育目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。研究科委員会の役割に「教育課程」に関する担当者を決めてその評価検証を行い、教育委員会に報告、検証している。2020年度に向けて分野の追加を行ったので、検証方法については2020年度以降に検討の予定である。
(5)学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	少人数授業であるので、個々の学生の興味関心に応じた指導が可能で、教員も参加した議論も活発に実施している。時には、他学科の先生や、学外の施設の協力を得て、学際的な授業を組むこともある。	博士前期課程では、学生の学習を活性化するため、学生同士の議論ができる授業展開を行い、知識を深め考える力を効果的に養う工夫を行っている。博士後期課程では、研究の背景や繋がりを識り、自身の研究テーマの意義を認められるように、関連学会や研究会への参加を促し、様々な機会を通じた教育的措置を講じている。	学位授与の方針(ディプロマポリシー)実現のために、学生の修了目的に応じて履修モデルを提示している。また、カリキュラムポリシーに従い、コア(必修)科目と選択科目をバランスよく配置している。社会人学生対象には長期履修コース(3年)を設け、それぞれのペースで修了できるように配慮されており、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっている。各担当教員によって、授業内容・授業方法が概ねシラバスに則って行われており、講義及び演習、受講生の討議、文献講読、プレゼンテーションなど授業形態、授業内容、授業方法において学生の主体的参加を促す多様な方法(アクティブラーニング)を取り入れて行っている。	授業の実施方法については、各担当教員によって、授業内容・授業方法が概ねシラバスに則って行われており、毎月定期的に行われている「看護学研究科委員会」において、授業の進捗状況や課題について報告し、情報は全員で共有している。学生の主体的参加を促すための配慮については、各担当者が工夫しながら実践している。毎月の看護学研究科会議において、開講科目の実践について報告し、教員間で共有している。学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するための研究科の主体的かつ組織的な取り組みになるように、FD研修の機会拡大や教員の役割の明確化などに取り組んでいる。
(6)成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	大学の学業成績評価規則に則り、個々の教員の責任において成績評価を実施している。学位授与は単位取得、論文、口頭試問の結果をもとに、研究科委員会にて確認し、適切に実施している。	四国大学大学院研究科規則によって定めた博士前期課程・博士後期課程の各単位数を取得し、四国大学学則を準用する成績評価方法で評価を行い、さらに四国大学学位規則に則って、適切に学位授与を行っている。	「四国大学学業成績評価規則」に基づき、成績評価及び単位認定を行っており、「四国大学大学院人間生活科学研究科学位審査実施細則」に基づき、研究科委員会で学位を授与している。	「四国大学学業成績評価規則」に基づき、成績評価及び単位認定を行っている。学位授与については、研究科委員会の審査を経て適切に行っている。
(7)学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	個々の教員の責任において、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握し、評価している。	学位授与方針に明示した学生の学習成果は学生カルテシステムを用いて研究科担当教員の誰もが適切に確認でき、評価は各教科担当者が適切に行っている。	ディプロマ・ポリシーに示した学習成果となっているかについて、各教員の成績評価及び学位審査において、把握・確認している。	ディプロマ・ポリシーに示している学位授与にふさわしい能力が学習成果として修得できたかどうかを、修士論文の審査を通して確認している。
(8)教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	四国大学教育改革推進委員会にて、定期的に点検・評価を受けており、その結果をもとに研究科委員会で議論して改善・向上に向けて取り組んでいる。	教育課程及びその内容、方法の適切性については、教育改革推進委員会の定期的な中間報告、実績報告を機に、定期的に点検・評価を行っている。また、その結果をもとに、科目の統廃合、時代の趨勢を考慮した科目の新設など、改善・向上に向けた取り組みを行っている。	教育課程及び教育内容・方法の適切性について、教育改革推進委員会で定期的に点検・評価を実施し、学部生や社会人にとって魅力あるカリキュラムを令和2年度から開始する準備をしている。今後は、大学院教育のための研修、FD活動の活性化が課題である。	教育課程及び教育内容・方法の適切性についての看護学研究科独自の点検・評価は研究科委員会の活動として位置づけ、担当者を決めて取り組み、教育改革推進委員会に報告、検証している。

(5)学生の受け入れ

評価項目	文学研究科	経営情報学研究科	人間生活科学研究科	看護学研究科
(1)学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を定め、四国大学ホームページ、入試要項等に記載し公表している。	博士前期課程及び博士後期課程のそれぞれに明確なアドミッション・ポリシーを設定し、研究科の学生の受け入れ方針を定め、四国大学ホームページ、入学案内、入学試験要項等に掲載し公表している。	大学院としての学生の受け入れ方針及びそれを踏まえた研究科の学生の受け入れ方針を定め、四国大学ホームページ、入学案内、入学試験要項等に掲載し公表している。	研究科の学生の受け入れ方針を定め、四国大学ホームページおよび入学案内によって公表している。また、説明会の開催時に説明の場を設定している。
(2)学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を整備し、四国大学ホームページ、入試要項等には必要事項を記載し、入試は大学全体の方式に則って的確に実施している。	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、これらをホームページ、入試要項等に記載し、入学者選抜を公正に実施している。	学生の受け入れ方針に基づき、入試方式、募集人員、選考方法を適切・公平に設定し実施している。	学生の受け入れ方針に基づき、入学者選抜を公正に実施している。入学事前審査基準は臨床経験3年以上であり、それまでの研究計画書の提出も求めている。入学事前審査の必要な受験生のための受験支援は主に「特別研究」担当教員が行っている。

(3)適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	適切な定員を設定して学生の受け入れを行っているが、定員充足率の目標を十分に達成してはいない。	適切な定員を設定して学生の受け入れを行っているが、現状として収容定員に対する在籍学生数が少ないため、今後は定員確保を目指す。	適切な定員を設定して学生の受け入れを行っている。在学生は2年生5名(定員10名)、1年生4名(定員10名)となっており、収容定員に対する在籍学生数比率は0.45となっており、定員の充足を目指す。	適切な定員を設定して学生の受け入れを行っている。平成28年度7名、平成29年度5名、平成30年度12名で、収容定員に対する在籍学生数比率は1.00である。
(4)学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	現在のアドミッション・ポリシーは平成29年度に改訂したものである。四国大学教育改革推進委員会において定期的な点検・評価を実施し、その結果をもとに研究科委員会で議論し、改善・向上に向けた取り組みを行っている。	学生の受け入れの適切性は、教育改革推進委員会の中間・期末における定期的な報告の時期に点検・評価を行っている。また、その結果をもとに、研究科委員会で改善・向上に向けた検討を行い、取り組めるところから取り組みを随時行っている。	アドミッションポリシーの検証については、本学の教育改革推進委員会の主導の元に、文部科学省の中央教育審議会のガイドラインに基づき、研究科委員会で検証を行っている。研究科の学生の受け入れ方針に基づき、各入学試験制度がどのように機能しているか検証し、次年度の学生募集・入学試験制度について、研究科委員会及び入試運営委員会で検討している。	2018年度に検討し修正した。学生募集および入学選抜については「入試」担当教員、学生の受け入れの適切性については「履修要綱作成」担当教員が中心となって、それぞれ検討している。

(6)教員・教員組織

評価項目	文学研究科	経営情報学研究科	人間生活科学研究科	看護学研究科
(1)大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編成に関する方針を明示しているか。	四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」と、「文学研究科担当教員選考規則」及び「実施細則」によって明示している。	大学の理念・目的に基づき、博士前期課程では研究科における教育課程の編成を適正に行う中で、研究科の教員組織の編成方針を決めている。その採用は、四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」と、「経営情報学研究科担当教員選考規則」および「実施細則」によって明示している。	大学院担当教員は、担当教員等選考規則に明示しており、授業担当(講義のみ担当)、研究指導担当教員(補助)教員、特別研究指導担当教員に分けて教員組織を編成している。教員の選考は研究科委員会で審議される。	四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」、「四国大学大学院看護学研究科授業担当教員等選考規則」に則り、教員組織の活動計画は年度当初に作成し、教員間で検討してその計画に沿って各教員は役割を果たしている。年度末の3月には活動実績について報告し、次年度の課題を抽出している。
(2)教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	文学研究科の教育研究活動を的確に展開するためにふさわしい教員を選考し、大学の承認を経て配置している。	教員組織の編成に関する方針に基づいた教育研究活動を展開するため必要とされる研究分野を精査し、偏りや不足が生じないように適切に教員組織を編成している。	教員組織の方針に則って、教育研究活動を展開するため、教員組織を適切に編成されている。	教員組織の方針に則って、分野の担当はその専門性から判断して担当の可否を決定し、共通科目の担当の可否については、各教員の教育研究業績に基づいて決定しており、教員組織を適切に編成している。
(3)教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。	四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」及び「文学研究科担当教員選考規則」及び「実施細則」に明示され、それに則り適切に遂行している。	教員の募集・採用・昇任等は、四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」と、「経営情報学研究科担当教員選考規則」および「実施細則」によって明示された規定に則り、適切に行っている。	教員の募集・採用・昇格については「四国大学教育職員採用・昇任選考基準」及び「四国大学生生活科学部教育職員採用・昇任選考基準」、「人間生活科学研究科授業担当・研究指導担当教員(補助)教員選考規定」「四国大学大学院人間生活科学研究科特別研究指導担当教員選考規則」に明示され、それに則り適切に遂行されている。	四国大学の「教育職員採用・昇任選考基準」及び「看護学研究科授業担当教員等選考規則」に則り、看護学研究科を担当する教員については、研究科委員会において審議・決定し、研究科の各分野に特別研究を担当できる教員を配置できるように募集を行っている。
(4)ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質の向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	大学全体のFD委員会主催の研修や、言語文化研究所主催の研修に参加している。	大学全体で実施するファカルティ・ディベロップメント(FD)活動のための研修等に参加することで、組織的かつ多面的に教員の資質の向上及び教員組織の改善・向上につなげている。	全ての教員が大学との兼務であるため大学教育としての研修、FD活動、新任教員に対する研修会が実施されている。大学院教育のための研修、FD活動の活性化は今後の課題である。	研究科担当教員のFD活動は、教員役割のFD委員会を中心に達成目標を定めて研修を行っている。FD活動の評価検証はその都度アンケートで確認している。
(5)教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	四国大学教育改革推進委員会にて、定期的に点検・評価を受けており、その結果をもとに研究科委員会で議論して改善・向上に向けて取り組んでいる。	教員組織の適切性については、教育改革推進委員会で報告する時期を見直しの機会と捉え、定期的に点検・評価を行っている。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っている。	教員組織の適切性については研究科委員会で随時教員の教育研究の適切性についての討議や研究科の設置目的を達成する組織の在り方、教員構成のバランスや専門性などについて継続的に検証を行い、教育改革推進委員会に報告、検証している。	教員組織の適切性については研究科委員会で随時検討し、研究科の設置目的を達成する組織の在り方、教員構成のバランスや専門性などについて継続的に検証を行い、教育改革推進委員会に報告、検証している。